

まつどミュージアム

No. 1 1993年(平成5年)6月



◇建築の概要

敷地面積	7,795.81㎡	
建築面積	2,709.92㎡	
延床面積	5,446.73㎡	1階 2,515.17㎡
		2階 1,542.92㎡
		地下 1,388.64㎡

◇収蔵品点数(概数)

考古関係	5,000点
歴史関係	470点
民俗関係	600点

◇収蔵図書冊数(概数)

約10,000冊

開館にあたって

館長 岩崎 卓也

松戸市立博物館は、予定とおり4月29日に開館しました。そして開館から1か月間の入館者が45,000人という、予想をはるかに上まわる数字を示してくれました。

雨評判の高かった「21世紀の森と広場」の中にあるという地の利も無視できませんが、やはり「松戸に博物館を」という市民の期待が大きかったことによる、と考えたいのです。ここにあらためて博物館建設を英断された市当局ならびに関係諸氏、また身を粉にして開館準備にあたってこられた学芸員はじめ教育委員会のみなさんのご苦労に対して敬意を表します。

松戸市域の都市化は、1960年代に入ることからピッチが上がりました。そしてこの市域の歴史的景観は、目を追って変貌しはじめました。このような事態に直面し、折しも進められていた市史編纂事業もまた、当初の計画に加えて、変わりゆく松戸の姿を市史に再現できるよう、道跡の分布調査、典型的・代表的民家の記録作成、そして民俗調査などにも力を注ぐことになりました。

いっぽう、松戸市でも1962年には「松戸市文化財保護条例」を制定して、歴史的記念物の保護・顕彰に乗り出しました。しかし、時代の要請でもあった開発の進行の方がはるかに早く、1963年春には陣ヶ岡貝塚が、秋には大谷口の小金城跡の主要部分が姿を消すという有様でした。さらに、小金原団地建設計画とともに、開発の手など及ぶはずもないと思われた貝の花貝塚も、1966年には削平されてしまいました。それとともに、消滅した道跡から出土した土器や石器、取り壊された旧家から運びこまれた民具類、それに市史編纂事

業で集められた古文書類など、膨大な量の資料が、日の目を見ないまま市役所の各所に集積されることになりました。

ところで、当時の新聞等は、郷土に強い関心を示すのは地元の人びとであって、新市民の眼には東京しか映じない、と報じていました。ところが、1961年秋に刊行された『松戸市史』上巻は、むしろ新市民に広く読まれていることが明らかになりました。第二の郷土となる松戸をより深く理解しよう、との思いを抱く人も多かったのです。こうして、松戸市文化財審議会は、倉庫に眠る文化遺産を積極的に活用しようと、第1回の博物館建設要望の作成を決定しました。

松戸市立博物館は、好評のうちに開館しました。うれしさのあまり、つい20有余年甫を思い出してしまいました。

もちろん、いまに満足して立ちどまることはできません。この間に、教育課程の中で児童・生徒の郷土学習が重視されるようになり、生涯学習をめぐる問題も真剣に論じられるようになりました。世界はますます狭くなり、国際化の必要性が叫ばれ、環境と文明の相互性にも目が注がれてきています。これらの動きはすべて、今後の博物館活動に深く関係する課題となります。

また、博物館の利用者の間にも、ただ知識を得るというだけでなく、みずから問題解決の場との考え方が定着してきています。博物館職員は、その誠実な協力者であらねばならないでしょう。

とにかく、21世紀の博物館像を求めて、一歩一歩進んでいきたいと念じています。みなさんのご支援を心よりお願いしてやみません。

開館から今日まで

平成5年4月29日（木／みどりの日）、総合公園「21世紀の森と広場」の開園とともに松戸市立博物館は開館しました。当日は、午前9時より藤澤勇松戸市助役、秋元豊方市教育委員長、菊池治生松戸市議会教育・民生常任委員長、工藤鈴子市議会教育・民生常任副委員長、土原寛市教育長によるテープカットが行われた後、一般公開されました。朝からの雨にもかかわらず、3,500人の入館者でにぎわいました。その後は、折からゴールデンウィークとあって、連日1,000人から7,800人の方が入館され、5月5日までの1週間の間に約30,000人近い入館者数を記録しました。5月末現在の入館者は45,000人に達しています。



▶ オープンをまつ人々

なお、明治から昭和の時代まで町場や農村から都市へと移り変わる松戸に生きた人々の姿を紹介した開館記念展「松戸写真館——カメラがとらえた松戸の人々」は、6月13日をもって好評のうちに終了しました。多数ご観覧いただき、ありがとうございました。

見学者館校

河原塚小学校3年生（5月11日）／松飛台小学校6年生（5月12日）／牧野原小学校3年生（5月18日）／旭町小学校6年生（5月20日）／北部小学校3年生・県立松戸養護学校中学生（5月25日）／上本郷小学校6年生（5月26日）／松台小学校3・5年生・鎌ヶ谷第四中学校1年生（6月4日）



▶ 展示図録「松戸写真館」より

1F

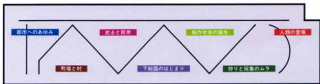


2F



展示紹介

総合展示 <2F>



はるか昔から現代まで、松戸の自然のなかで生きた先人たちの生活・文化・歴史を時代順に七つのゾーンに分けて、考古遺物や古文書などの歴史資料をはじめ、模型・グラフィックパネル・映像などを駆使して展示解説しています。

人類の登場（旧石器時代）

地球上に人類が出現して以来今日までの長い歴史のなかで、松戸に人類が足跡を残した約3万年前から土器が出現する縄文時代の前まで、旧石器時代といわれた時期の市内の遺跡を紹介し、その遺跡から出土した資料をもとに、当時の人々が使った石器の種類や作り方、地域・時期による石材の違いや変化を展示し、旧石器時代の人々の生活の一端を紹介しています。



狩りと採集のムラ（縄文時代）

1万年以上前から紀元前2、3世紀頃まで続いた縄文時代の人々の海の幸・山の幸に恵まれた豊かな生活や活発な地域間の交流の様子を、当時の森（縄文の森）・ムラ（縄文のムラ「貝の花」）の復元模型、市内の遺跡から出土した土器・石器・丸木舟などの遺物、貝殻・魚骨・獣骨などを展示して紹介しています。

稲作社会の誕生（弥生・古墳時代）

稲作文化の流入とともに暮をあげる弥生時代から政治権力の発展する古墳時代までの松戸の様子を、地域圏の形成や他地方との交流、外来文化の影響を物語る古墳時代の土器、人骨や滑石製模造品等が出土した松戸市に現存する最古の河原塚1号墳、栗山古墳から出土した馬形埴輪や人物埴輪などを中心に紹介しています。



下総国のほじまり（奈良・平安時代）

『更級日記』に「まつさとのわたりのつ」と記された松戸の古代のすがたを、当時の寺院・官道・郷の分布や「延喜式」の特産物の記述、奈良・正倉院にのこる下総国葛飾郡大島郷（現在の東京・荒川付近を含めた一帯）戸籍、千葉県北部に出土の集中する黒書土器をはじめ銅製帯金具・鉄器などの遺物を通して紹介しています。

武士と民衆（鎌倉～戦国時代）

下総国で活躍した有力武士、千葉氏・高城氏の盛衰と高城氏ゆかりの小金城を紹介し、また、「中世の生と死」をテーマに土壊や模神などを通して当時の信仰の世界を探り、いっぽうでさまざまな職業に従事した民衆（みちみちのともがら）のすがたを平賀の本土寺にのこる過去帳をもとにいきいきと再現しています。



町場と村（安土・桃山～江戸時代）

近世の松戸の様子を、農村の生活・支配の仕組みや庶民の楽しみなどを紹介した「近世の村」、水戸街道の宿場として栄えた松戸宿・小金宿、江戸川の特産物輸送に活躍した納屋河岸を紹介した「宿場と河岸」、徳川幕府直轄の牧場小金牧と、小金原で行われた将軍の狩りなどを紹介した「小金牧と御馳走」の三つのコーナーで紹介しています。



都市へのあゆみ（明治時代～現代）

明治・大正・昭和と時代の流れとともに変化する松戸の様子を、写真・映像・実物資料でつづった松年表「松戸1868～1960」、昭和30年代前半の市内の農村を代表する三つの形態の模型で復元した「下谷・谷津・吉」、昭和30年代後半に首都圏の住宅都市へと急激に姿を変えた松戸を象徴する団地の2DK住宅での生活を復元した「常盤平団地の誕生」の三つのコーナーで紹介しています。



主題展示 (2F)



松戸の歴史を語る上で欠かせない特徴的なトピックス、市内で現在も行われている民俗芸能、総合展示の情報を裏付ける調査研究などを四つの部屋で展示しています。

考古学と科学の館

「年代を測る」コーナーでは植物の中にふくまれる¹⁴C(炭素)から年代を測定する放射性炭素年代測定法、火山灰を用いるテフラ年代測定法、木の年輪から年代を探る年輪年代測定法を紹介しています。

「環境を復元する」コーナーでは、花粉などの植物化石を用いて縄文時代の森を復元する方法と海にすむ微生物を用いた縄文時代の海を復元する方法を紹介しています。

虚無僧寺一月寺

「一月寺の歴史」コーナーでは、江戸時代に小金宿にあった虚無僧寺の総本山・普化宗(禪宗一派)一月寺と全国にあった虚無僧寺院の変遷を紹介しています。

「尺八の歴史」コーナーでは、虚無僧に独占されていた普化尺八が明治以降現代尺八に移り変わっていく歴史を紹介しています。

展示室中央には江戸時代の絵画資料をもとに考証復元した虚無僧像を展示しています。



二十世紀梨の誕生

「松戸生まれの二十世紀梨」コーナーでは青梨の王様といわれた二十世紀梨の生みの親松戸寛之助ゆかりの資料や二十世紀梨原樹、梨の品種系統図を展示しています。

「ニホンナシの歴史」コーナーでは、古代から現代まで二十世紀梨誕生の歴史を解説しています。

「現在の梨づくり」コーナーでは、全国の梨栽培や梨の開花から収穫までの栽培の様子を映像で紹介しています。

展示室中央には竹で作られた昔の梨槽を復元して展示してあります。



三匹獅子舞

松戸市内の上本郷・和名ヶ谷・大崎地区で現在も行われている民俗芸能「三匹獅子舞」を映像で紹介し、その特徴や成立と展開を全国的視野から解説しています。

また、上本郷・和名ヶ谷の獅子頭の模刻と太鼓を展示しています。

野外展示〈縄文の森〉

松戸市内の子和清水貝塚の発掘調査資料をもとに縄文時代中期（約4500年前）の竪穴住居を3棟復元しています。いちばん大きな竪穴住居（6本柱）は高さ5.9m、広さ32.15㎡、中くらいの竪穴住居（5本柱）は高さ5.3m、広さ21.23㎡、小さな竪穴住居は高さ4.8m、広さ12.56㎡で、それぞれ10人、6～7人、3～4人が住む大きさと考えられています。



ここでは縄文時代の生活を身をもって学ぶ体験講座も開かれます。

●〈開放時間〉土・日のみ：午前10時～12時、午後1時～3時半
（正午～午後1時：昼休み）

企画展示・資料展示〈1F〉

企画展示では、年に3回くらい特定のテーマに基づいた展示が行われます。6月13日までは開館記念展「松戸写真館」が開催されていました。今後の予定については行事案内の欄を参照してください。



資料展示では、松戸市内で発掘や発見された考古・歴史・民俗関係の資料を随時紹介していきます。現在、7月25日（日）まで市内の道徳から出土した縄文土器を展示しています。

映像展示〈1F〉

ビデオコーナーでは、市内の文化財案内、民俗芸能の紹介ビデオを視聴できます。

また講堂では、月変わりて毎日定時にハイビジョン映像を上映するほか、講演や企画展示に関連した映像も随時上映します。6月のハイビジョンは「美の回廊をゆく／永遠の栄華・白亜にこめて——インド・タージマハル」を上映しています。7月以降の上映予定については行事案内の欄を参照してください。

展示室以外の施設

ブレイルーム

後継織りで布を織ったり、縄文時代の布「編布」を編む技術体験など、楽しく歴史の一コマにふれることができます。

ビデオコーナー

4台のブースを設置し、パソコン歴史タイズ「松戸タイムゾーン」や文化財案内、民俗芸能の紹介などのビデオが楽しめます。聴覚障害の方のために字幕版も用意してあります。

講堂

大型スクリーンでハイビジョン映像や企画展示・行事に関連した映像を上映したり、講演会・講座などの会場になります。

実習室

体験学習や技術講座など歴史を体験する楽しい催しの会場になります。

閲覧コーナー

一般の歴史・考古・民俗関係の図書・辞書類などのほかに、松戸をはじめ千葉県内外の歴史や文化に関する本、調査報告書などが閲覧できます（一部開架式になっています）。

行事案内

展示 (企画展示・資料展示)

6月	■松戸写真館——カメラがとらえた松戸の人々 (13日まで) ■資料展示「市内出土の縄文土器」 (7月25日まで)
10月	■特別展「縄文土器の世界」 (10月23日より12月12日予定)

講座・講演会 (含技術体験)

6月	■古文書を読むく近世編> (8月1日まで) [受付締切]
7月	■布を織る I (27・28日)
8月	■布を織る II (3・4日) ■こども歴史相談室 I (5日) ■道路発表会 ■楽器づくり ■こども歴史相談室 II (26日)
9月	■講演「関東の「藤ノ木古墳」」 ＜講師：館学芸員＞
10月	■土器をつくる

- 展示・講演などの詳しい日程や内容については事前に広報「まつど」紙までお知らせします。
- 「布を織る」は午前10時・午後2時の一日2回開講します。参加希望者は当日、プレイルームで定員8人受け付けます。
- 「こども歴史相談室」は当日、午前30時より午後4時まで実習室でご相談を受け付けます。

ハイビジョン上映 (於講堂)

6月	美の回廊をゆく／永遠の栄華・白亜にこめて—インド・タージマハル (30分)
7月	東北の夏祭り (20分)
8月	飛騨・高山祭り (43分)
9月	古代の輝き／藤ノ木古墳 (20分)
10月	大英博物館／中央アジアの旅 (60分)

- ＜上映時間＞平日：13・15時より (2回)
土・日・祝日：11・13・15時より (3回)

お知らせ

●あなたも縄文時代の布「編布」づくりを体験してみませんか。現在プレイルームで午前10時と午後2時の二回、布づくりを指導しています。小学生以上の方ならどなたでも参加できますので、興味のある方はぜひ縄文の技術に挑戦してみてください(参加ご希望の方は直接プレイルーム受付にお申し出ください)。
●9月20日(月)より30日(木)の間は、害虫やカビから展示品・収蔵資料を守るため全館閉館を行いますので休館します。

後記

まばゆいばかりの陽光と緑陰の季節の中、松戸市立博物館は産声をあげました。毎日がはじめて経験することばかりで、新鮮な感動と戸惑いの連続です。開館直後ではない点が多々あることと思いますが、地域をはじめ博物館活動を支援してくださるすべての方に親しまれるよう、この館をみなさんとともに育てていく決意です。館員一同、みなさんのご来館を心よりお待ちしております。

利用案内

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日(ただし祝日にあたるときはその翌日)

館内整理日(毎月第4金曜日)

年末年始(12月28日～1月4日)

観覧料

	個人	団体
一般	300円	2400円
高校生・大学生	150円	1000円
小学生・中学生	100円	600円
企画展・特別展に要する観覧料をいただくことがあります。		

(小学生未満は無料・団体は20人以上)

開通 新京成線八柱駅・JR武蔵野線新八柱駅下車、新京成バス小金原団地行「公園中央口」下車

まつどミュージアム No.1

発行日 1993年(平成5年)6月30日

編集・発行◎ 松戸市立博物館

〒270 千葉県松戸市千駄堀 671

☎0473-84-8181